

大戸美也子・国吉榮共編  
幼児保育史年表

昭和十九年  
一九四四年  
昭和三〇年  
一九五五年

本年表作成に当たっては、『幼児の教育』誌に関連のある事項に重点をおき、戦後日本の社会及び教育事情との関連が明瞭になるように配慮した。年表上欄「日本の幼児保育事項」には、日本の幼児保育に関する事項及び刊行物を記載し、下欄「関連事項」には、社会・文化の主要事項及び教育関係刊行物を記載した。第一期復刻別巻の年表とあわせて参考にされたい。なお、本年表作成に当たっては、主として次の書物を参照した。

日本幼稚園協会編『幼児の教育』第四四卷～第五四卷 フレーベル館

文部省『幼稚園教育百年史』 ひかりのくに株式会社 一九七九

岡田・久保・坂元・穴戸・鈴木・森上編『戦後保育史Ⅰ・Ⅱ』 フレーベル館 一九八〇

大田堯編著『戦後日本教育史』 岩波書店 一九七八

『近代日本総年表』 岩波書店 一九六八

渡辺柴郎實『フレーベル館七十年史』 フレーベル館 一九七七

一番ヶ瀬康子他篇『日本の保育』 ドメス出版 一九六二

『日本キリスト教保育八十年史』 基督教保育連盟 一九六六

お茶の水女子大学文教育学部附属幼稚園「年表・幼稚園百年史」 国土社 一九七九

日本保育学会『日本幼児保育史』第六卷 フレーベル館 一九七五

『倉橋文庫』蔵書（お茶の水女子大学図書館蔵）

#### 〔凡 例〕

- 一 記載順序は、各月日付の早いもの順とし、日付不明の場合はその月の末尾に記載してある。また月日不明の場合はその年度の終りに一括して記載してある。
- 二 刊行物は、上欄に保育専門図書を、下欄に関係図書をそれぞれ著者名のアルファベット順に記載してある。
- 三 「」は行政関係の法令・通達等及び書名を示す。「」は雑誌名を示す。
- 四 (米)は米国、(英)は英国、(ソ)はソビエト連邦、(カ)はカナダを標記している。

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和一九 一九四四 『幼児の教育』 第四四巻	四・一九 東京都、幼稚園閉鎖令を出す 五・一七 「学校身体検査規定」制定 五・—— 「戦時託児所設置規準」制定 六・一三 城戸幡太郎検査される 七・—— 東京都、疎開保育所を開設する 九・一 東京女子高等師範学校附属幼稚園休園 三・—— 愛育研究所附属保育所で集団疎開始まる（この年、農 繁期保育所五万を超える） 三・—— 『幼児の教育』誌、十二月を最後に休刊となる（一一 一・九）	一・二六 東京、名古屋、指定区域内の建築物強制取壊 し、以後各都市で強制疎開実施される 二・二五 「決戦非常措置要綱等」閣議決定 三・二八 「学校ニ於ケル休業日ニ関スル件」公布 四・一 雑誌『日本ノコドモ』創刊（三月、東京大空 襲により休刊（一一・三） 国民図書刊行 会 六・六 連合軍ノルマンディー上陸 六・三〇 国民学校初等科児童の集団疎開決定 日本出版会、空襲対策として児童用絵本三〇 〇万冊を疎開 七・一八 東条内閣総辞職 七・—— （ソ）妊婦および多子家庭に対する国家の援 助決定 二・一 B 29 東京初爆撃 三・—— （ソ）幼稚園規定制定 —— （英）バトラー法制定 —— （米）二五四人以上の集会禁じられる

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二〇 一九四五 『幼児の教育』 休 刊	<p>三木安正「乳幼児の保育」 柴山教育出版社</p> <p>守屋光雄「乳幼児心理学」 内外出版</p> <p>関猛、功刀よし子「保育教材幼児の遊びと指導」 照林堂書店</p> <p>竹下直之他編「就学前の児童」 国民図書刊行会</p> <p>山下俊郎「幼児の家庭保育」 大理書房</p> <p>三・一八 「決戦措置要綱」閣議決定（国民学校初等科を除き、学校における授業を四月から一年間停止することとする）</p> <p>二・九 東京女子高等師範学校附属幼稚園、保育開始式</p> <p>三・― 東京都、都立託児所集団疎開を引揚げ、野外保育をはじめ。</p> <p>守屋光雄「児童心理学研究」 京都印書館</p>	<p>一・六 東京高師附属国民学校・中学校等で自然科学特別学級発足</p> <p>二・四 英米ソ、ヤルタ会談</p> <p>三・九 B 29 東京大空襲（死者12万人）</p> <p>三・― （ソ）「幼稚園教師のための指導書」第二版出版</p> <p>四・一 米軍沖繩本土に上陸</p> <p>四・一二 ルーズベルト大統領没して、副大統領トルーマン 第三十二代大統領に就任</p> <p>四・― 全米ナースリー協会のパンフレット発刊（一九五四年、The J. of Nursery Education と改称後、一九六四年 Young Children に改称）</p>

- 五・七 独軍、連合軍へ無条件降伏
- 五・二二 「戦時教育令」公布（全学校・職場に学徒隊結成）
- 八・六 広島に原子爆弾投下
- 八・九 長崎に原子爆弾投下
- 八・一五 ポツダム宣言受諾 無条件降伏
- 八・二〇 教科書の黒塗り始まる
- 八・二七 ラジオ放送「小国民の皆さんへ」始まる
- 九・一〇 GHQ、「言論及び新聞ノ自由ニ関スル覚書」を政府に通告
- 九・一五 文部省、「新日本建設の教育方針」発表
- 九・ — 「戦災孤児等保護対策要綱」閣議決定
- 二〇・四 雑誌『世界』創刊 岩波書店
- 二〇・五 「戦時教育令」廃止
- 二〇・一〇 集団疎開児童帰京開始
- 二〇・一五 「私立学校ニ於ケル宗教教育ニ関スル件」訓令（私立学校の宗教教育許される）
- 教学練成所を教育研修所に改編 所長城戸幡太郎（四九・六、国立教育研究所となる）
- 二〇・二二 GHQ、「日本教育制度ニ関スル管理政策」指令

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
		<p>一〇・二四 国際連合正式に成立</p> <p>一〇・三〇 GHQ、教育関係者の超国家主義者追放を指 令</p> <p>二・二六 GHQ、図書館開設（アメリカ文化センター の前身）</p> <p>二・—— NHK、幼児の時間始める</p> <p>三・一 全日本教員組合発足（二一・五 全日本教育 労働組合に改称）</p> <p>三・一五 GHQ、国家神道の禁止を指令</p> <p>三・一七 「婦人参政権」公布</p> <p>三・二四 劇団東童「青い鳥」上演</p> <p>三・三一 GHQ、修身・日本歴史及び地理の授業停止 と教科書回収を指令</p> <p>—— 「お山の杉の子」「りんごの歌」など流行</p> <p>—— （米）パティ・ヒル基金、戦時下のノルウェ ー教師に授与される</p> <p>Piaget, J.: La Formation du symbole chez l'enfant (英語訳 Play, Dream and Imitation</p>

<p>昭和二 一九四六 『幼児の教育』 第四五巻 (一〇月復刊)</p>	<p>一・——「ヒカリノクニ」創刊(全日本保育連盟監)昭和出版 (二二・六に「ひかりのくに」に改題) 二・——恩賜財団母子愛育会研究所内、日本保育研究会再発足 三・五第一次アメリカ教育使節団来日 三・三一アメリカ教育使節団、報告書提出(四・七発表 第三章「子どもの成長についての正しい原則からいって、学校的な施設を幼児にまで拡張することが、正当である。正規な学校教育組織に必要な修正がなされ、適当な予算を与えた後に、補助的な保育学校(ナーセリー・スクール)や幼稚園を設置して、それを初等学校の一部分に編入することを勧告する。」) 四・——東京女子高等師範学校附属幼稚園、第一部、第二部の編成を廃止 休園していた幼児も復園し前年募集の園児と合併し、組編成する 四・——奈良女子高等師範学校、保育科を再開 四・——日本保育研究会、「保育巡回懇談会」を都内一二か所で開催 四・——厚生省、社会局に援護課設置(児童福祉所管) 五・一雑誌『保育』復刊 全日本保育連盟監 昭和出版 五・一四「国民学校及幼稚園の調査に関する件」通達 六・二〇「公立学校官制」改正(公立幼稚園の職員は地方教官</p>	<p>in Childhood 一九五二) Spitz, R.A.: Hospitalism in Psychoanalytic Study of the Child vol. I 一・一 天皇、神格否定の詔書(人間宣言) 二・二二「国民学校令等戦時特例」廃止 三・四「国民学校令施行規則」改正(修身、国史、地理の關係条項の執行を停止) 三・一五(ソ)第四次五ヶ年計画(一五〇年 教育費を一九四〇年の二・六倍にする) 三・——雑誌『子供の教養』高崎能樹編復刊 子供の教養社 四・一「公立学校令」公布 四・二二雑誌『日本ノコドモ』復刊 国民図書刊行会「サザエさん」、「夕刊フクニチ」に連載開始 四・——雑誌『赤とんぼ』創刊(一四八・十)実業之日本社 五・——雑誌『思想の科学』創刊 思想の科学社 五・一雑誌『子供の広場』創刊 新世界社 五・——メーデー、一年ぶりに復活 五・——文部省、「新教育指針」発表 五・——後藤梢根、日本童話会結成 雑誌『童話』創刊</p>
------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
六・二二	となり、職名は園長のみ残る） 「幼稚園令」改正（「保姆」を「幼児ノ保育ヲ掌ル職員」、 「保姆免許状」を「幼稚園教員免許状」とする）	六・二二 「国民学校令」改正（訓導を教員とする）
七・三七 <sup>三</sup>	仏教保育協会講習会開催	六・—— 「リーダーズダイジェスト」日本語版創刊 リーダーズダイジェスト日本支社
八・一〇	「教育刷新委員会」設置	七・七 日本童画会結成
八・二〇	観察絵本「キンダーブック」復刊 フレーベル館	八・二八 「階名唱法について」通達（戦時中のイロハ 音法を改める）
九・二 <sup>一</sup> 四	日本幼稚園協会講習会再開される	九・七 雑誌「日本児童文学」創刊 新世界社
九・——	生活保護法により、託児所が保護施設となる	一〇・九 「男女共学制度の実施について」通達
一〇・一	「幼児の教育」復刊される（編集主幹・倉橋惣三 編 集委員・牛山義友、及川ふみ、斎藤文雄、多田鉄雄、 山下俊郎 巻頭論文・倉橋惣三「新日本建設と幼児教 育の使命」印刷、発売、発送等実務一切をフレーベ ル館に委託） 倉橋惣三「保育者の新しいノート」、「幼児の教育」に 掲載される（第四五卷一・二号）	一〇・—— 雑誌「銀河」創刊（一四九・八）新潮社
一〇・一一	「幼稚園令施行規則」改正（六・二二の「幼稚園令」 改正に準ずる）	二・二六 当用漢字表（一八五〇字）および現代かなづ かい告示
一〇・——	民主保育連盟発足（会長 羽仁説子、「民主保育ニユー ス」創刊）	三・—— 「学校給食の普及、奨励について」通達 出版社の復活、誕生が相次ぎ、その数は四〇 〇社を超えた。空前の出版ブーム到来 （米）パティ・ヒル、アリス・テンブル死去 （進歩主義幼児教育の推進者）
一一・三	「日本国憲法」公布（五・三施行）	（英）保健法制定（新設保育所への一〇〇%



援助停止、無認可保育所の発生を促す)

- 二・—— 基督教保育連盟、戦後第一回大会開催、(於 京都)  
三・一 東京都私立幼稚園協会再発足(理事長 青柳義智代)  
三・二七 教育刷新委員会、「教育の理念及び教育基本法に関する  
こと」、「学制に関すること」、「私立学校に関すること」  
「教育行政に関すること」を建議

- 三・—— 倉橋惣三「米國教育使節団報告書中の幼児教育に関する  
提言と学校教育の下への延長」、「幼児の教育」に掲  
載される(第四五卷二号)

「アメリカの幼児教育」の紹介記事「幼児の教育」に  
掲載される(第四五卷二・三号)

高崎能樹「新教育の実際 育ての道」 子供の教養社

昭和二二

一九四七

『幼児の教育』

第四六卷

- 一・—— 「現代かなづかい」が『幼児の教育』に附録として掲  
載される(第四六卷一号・二号、『幼児の教育』第四十  
六卷の掲載論文から現代かなづかいに統一される)  
一・二五 中央社会福祉事業委員会、「児童福祉要綱案」答申

Allport, T. and Postman, L.: The Psychology of  
Rumor (南博訳「噂の心理学」 岩波書店 一九五二)  
Carmichael, L. (Ed.): Manual of Child Psychology  
Gesell, A.: The Child from Five to Ten (周郷博・  
山下俊郎・大羽綾子・神山正治訳「学童の心理学 五才より  
十才まで」 新教育協会 一九五四)  
Jersild, A.T.: Child Development and the Curriculum  
(依田新・正木正・長島貞夫訳「児童の発達とカリキュラム」  
新教育協会 一九四九)  
Spock, B.: Common Sense Book of Baby and Child  
Care (高津忠夫監修「スポック博士の育児書」 暮しの手  
帖社 一九六六)

- 一・—— 東京で学校給食開始(ララ物資による副食の  
み)

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>二・六 「新学校制度の実施について」通達</p> <p>二・一二 幼児教育内容調査委員会発足（保育要領の作成はじめる）</p> <p>二・—— 全日本保育連盟、「幼児保育施設の整備拡充に関する建議案」発表</p> <p>三・三一 「教育基本法」「学校教育法」公布（幼稚園法制化される。幼稚園令の廃止）</p> <p>三・—— 厚生省に児童局新設</p> <p>四・—— GHQのヘレン・ヘファーナン女史「現代幼稚園教育の発達」、「幼児の教育」に掲載される（第四六卷三号）</p> <p>五・二三 「学校教育法施行規則」制定（幼稚園令施行規則を廃止）笠原謙二郎「学校教育法施行規則幼稚園の部解説」、「幼児の教育」第四六卷六・七号に掲載される</p> <p>五・—— 「教育基本法」「学校教育法」が「幼児の教育」に附録として掲載される（第四六卷四号）</p> <p>倉橋惣三「学校教育法における幼稚園」、「幼児の教育」に連載始まる（第四六卷五・八号 東京都主催、倉橋講師による「学校教育法における幼稚園の性格とその保</p>	<p>二・—— 石井桃子「ノンちゃん雲にのる」刊 光文社</p> <p>三・一二 （米）トルーマン・ドクトリン発表（共産化防止のための対外援助を提案）</p> <p>三・二〇 「学習指導要領」（一般編試案）刊</p> <p>四・一 六・三・三制実施 新制中学校発足</p> <p>四・七 「労働基準法」公布（九・一施行）</p> <p>四・一七 「地方自治法」公布</p> <p>四・—— 戦後初の「全日本おもちゃ展」開催</p> <p>五・二一 「教職員の除去、就職禁止及び復職に関する政令」公布</p> <p>五・二三 「学校教育法施行規則」制定（小学校の教科は、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育、自由研究の九教科が基準となる）</p>

	<p>育原理」の講習会筆記)</p> <p>五・—— 第一回全国児童福祉大会開催(会長 中川望、於 東京日赤)</p> <p>第一回全国児童福祉週間実施</p> <p>六・一一 東京都保育連合会結成</p> <p>六・一八 「小学校、新制中学校及び幼稚園教員認定講習会実施基準に関する件」通達</p> <p>七・三〇 幼稚園教員認定講習会第一期開催(於 東京女高師 課目・「新憲法及び教育基本法」その他)</p> <p>七・—— 基督教保育連盟第一三回(戦後第一回)夏期講習会開催</p> <p>七・—— 文部省初等教育課に特殊教育と幼稚園担当視学官がおかれる</p> <p>八・一三 土川五郎死去</p> <p>九・—— 私立学校教職員組合幼稚園部設立</p> <p>一〇・八二 幼稚園教員認定講習会第二期開催(於 東京女高師 課目・「保育要領」その他)</p> <p>一〇・一七 関西連合保育会研究協議会第一回大会(戦後再開されたはじめての会合 於 京都 『幼児の教育』第四六卷十号に内容紹介)</p> <p>一一・二三 全国保育連合会発足 第一回全国保育大会開催(於 東京女高師 『幼児の教育』第四六卷十号、第四七卷</p>
<p>六・八 日本教職員組合結成</p> <p>七・—— 菊田一夫「鐘の鳴る丘」放送開始(七九〇回、主題歌「とんがり帽子」流行)</p> <p>六 教育刷新委員会、「教育養成について」建議</p> <p>二・一一 視学制度を廃止し、指導主事の設置を通過</p> <p>—— (米)ACE(児童教育協会)、ACEI(国際児童教育協会)に改称される</p> <p>田中寛一「田中びねー式知能検査法」世界社</p> <p>YMCA編「ゲームと指導」日本基督教女子青年会</p> <p>Axline, V.M.: Play Therapy (小林治夫訳「遊戯療法」岩崎書房 一九五九)</p> <p>Early Childhood Education (National Society for the Study of Educationの第四六年次第一部で特集す</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
<p>昭和二三 一九四八 『幼児の教育』 第四七巻</p>	<p>一―三号に内容紹介)</p> <p>三・八 教育刷新委員会、「学制に関する事」の追加を建議 (幼稚園を学校体系の一部とし、五歳以上の幼児の保育を義務制とすることを希望すること)</p> <p>三・一二 「児童福祉法」公布(二三・一・一施行)</p> <p>三・― 厚生省児童局に保育課新設</p> <p>木田文夫「遺伝体質学」 雄山閣</p> <p>日本幼稚園協会編「幼稚園お話集」 フレーベル館</p> <p>飛田多喜雄「幼児の言語教育」(保育叢書一二) 巖松堂</p> <p>一・二八 「公立中学校、小学校及び幼稚園官制」公布(公立幼稚園の職員を園長、教諭、地方教官とし、地方教官は園長又は教諭をもって充てることとする 二二・四・一から適用)</p> <p>三・一 「保育要領―幼児教育の手びき―」刊行</p> <p>三・一〇 幼児保育協議会開催(東京他三会場、各三日、保育要</p>	<p>る J・E・アンダーソン博士他編集)</p> <p>一・― 児童詩雑誌『きりん』創刊 尾崎書房</p> <p>『小学一年の学習』『小学二年の学習』創刊 学習研究社</p> <p>二・一六 義務教育漢字八八一字 発表</p> <p>二・― 「手をつなぐ子等」「蜂の巣の子どもたち」 上映</p>

領の趣旨徹底)

- |      |                                                      |      |                                                  |
|------|------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------|
| 三・一  | 和田実「幼稚園に関する新法令に疑義あり」、『幼児の教育』に掲載される(第四七卷三号)           | 四・一  | ベルリン封鎖                                           |
| 三・一  | 厚生省、「児童福祉法施行令」公布                                     | 四・七  | 「中学校の就学義務及び設置義務に関する政令」公布                         |
| 四・一  | 第一回児童福祉委員会(審議会)開催                                    | 五・一  | 世界保健機構(WHO)発足                                    |
| 四・二四 | 「学校教育法施行規則」改正(第四百四条第三号の規定により、幼稚園教諭仮免許状を有する者とみなす者を指定) | 五・二  | 厚生省、母子手帳の配布を開始                                   |
| 五・二三 | 関東保育連合会結成、同協議会第一回大会開催(於埼玉師範学校)                       | 五・一  | 美空ひばり、デビュー                                       |
| 七・三〇 | 日本幼稚園協会保育講習会開催(「保育要領」研究討議会・司会 倉橋惣三・他)                | 六・四  | 「学校基本調査規則」公布                                     |
| 七・三〇 | 第二回全国保育大会(於 奈良、会長 倉橋惣三)                              | 六・二七 | PTA第一回全国協議会開催                                    |
| 七・二八 | 「幼児の教育」第四七卷七号に内容紹介                                   | 七・一〇 | 「市町村立学校職員給与負担法」公布(市町村立小学校、中学校の教職員の給与を都道府県の負担とする) |
| 九・二二 | 全国私立幼稚園連盟(現在の日私幼)結成(二四年日本私立幼稚園連合会と改称)                | 七・一五 | 「教育委員会法」公布(一一・一施行)                               |
| 九・二二 | 保育要領改訂委員会発足(「幼稚園のための指導書音楽リズム」の作成)                    | 七・二〇 | 「国民の祝日に関する法律」公布                                  |
| 一〇・七 | 「公立学校職員等臨時設置制」公布(公立中学校、小                             | 九・二〇 | 雑誌『暮しの手帖』創刊 暮しの手帖社                               |
|      |                                                      | 一〇・四 | 教育長、指導主事等を対象とする教育指導者                             |

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>○・一六 学校及び幼稚園官制を廃止)</p> <p>関西連合保育会研究協議会第二回大会開催 (於 大阪、幼児教育の向上発展に関する建議書提出「幼児の教育」第四七卷一〇号に内容紹介)</p> <p>○・一 日本私学団体総連合会、日私幼の加盟を承認</p> <p>二・二一 日本保育学会発足 第一回研究発表会開催 (於 東京 女高師附属幼稚園 会長 倉橋惣三、副会長 小川正通・山下俊郎) 発表論文12、シンポジウム「幼児の教育年令の問題」(「幼児の教育」第四八卷二・三合併号に論文収録)</p> <p>二・一二 第二回全国保育大会開催 (於 奈良、「幼児保育機関の刷新振興に関する建議及び請願」を提出)</p> <p>三・二九 「児童福祉施設最低基準」施行</p> <p>上沢謙二「幼児のお話教育」(保育叢書一六) 巖松堂</p> <p>倉橋惣三「幼稚園雑草」再刊 乾元社 (初版昭和二) 内田老鶴園</p> <p>百田宗治「子供の世界」 小峰書店</p> <p>文部省「保育要領」 師範学校教科書株式会社</p> <p>奈良島知堂「子供へのお話の仕方」 小峰書店</p> <p>根岸草笛「農村乳児保育」「農村幼児保育」(保育叢書一二・一四)</p>	<p>○・三〇 講習 (IFEL) 開始 コアカリキュラム連盟発足 (二八年、生活教育連盟と改称)</p> <p>三・一 父母と先生の会参考規約を都道府県に配布 (PTAの結成の普及を促す)</p> <p>三・一二 「小学校学籍簿について」 通達</p> <p>「童謡絵本」刊行開始 トッパン</p> <p>世界幼児教育機構 (OMEP) 結成 (英) 保育所、託児規制法 (Nursery and Child Minders Regulation Act)</p>

昭和二四  
一九四九  
『幼児の教育』  
第四八巻

- ・ 巖松堂  
日本幼稚園協会編「幼稚園お話集」下篇 フレーベル館  
小川正道「新しい幼児教育のために」 昭和出版  
酒田富治「幼児の音楽教育」(保育叢書一五) 巖松堂  
副島ハマ「子供と母親の製作玩具」 片井商会出版部  
外林大作「児童心理学」 銀杏書房  
武政太郎「最近発達心理学(上)」 世界社  
戸倉ハル他「うたとゆうぎ」(春の巻・秋の巻) 二葉書店  
東京文理科大学内児童研究会編「児童の行動と発達(下)」(児童心理叢書二) 金子書房  
東京都保育研究会音楽部編「子供たちの楽しい歌」(全4冊) 白眉社
- 一・一二 「教育公務員特例法」公布
- 二・一 「学校施設の確保に関する政令」公布

- 青木誠四郎「精神薄弱児及中間児童」 壮文社  
後藤岩男「児童理解の方法」 世界社  
警視庁保安少年部少年第二課編「少年の補導」 警視庁  
大宮録郎「浮浪児の保護と指導」 中和書院  
大阪市民援護会編「子供の不良化はどうして防ぐか」  
大阪市民援護会  
大伴茂「日本天才児の研究」 平凡社  
鈴木鎮一「才能教育」 才能教育研究会  
鈴木治太郎「実際の知能測定法」(修正増補) 東洋図書  
東京文理科大学内児童研究会編「特殊児童の心理」(学習指導)(児童心理学叢書九) 金子書房  
牛島義友「不良化傾向の早期発見」(児童研究叢書一) 金子書房
- 一・五 トルーマン、年頭教書でフェア・デイルを發表(ニュー・デイルを継続)
- 一・一 雑誌「幼稚園」復題誌刊 小学館
- 一・一 ヤング「ブロンディ」連載開始(朝日新聞)
- 一・一 「成人の日」実施
- 二・一〇 大学設置委員会、新制公立大学79校を決定

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
二・二六	全国師範学校附属幼稚園主事会議（於 東京女高師 『幼児の教育』第四八卷五号に内容紹介）	二・—— 雑誌『少女』創刊
三・二五	「保育指針」刊行	三・一八 「学校身体検査規程」制定（一九九年の規程を 廃止）
三・七〇三	九州保育連合会結成、第一回保育大会開催	四・—— 岩波新書、装を新らたに再発足
四・五	学校教育法施行規則第四百条第三号の規定により、幼稚園教諭仮免状を有する者とみなす者を指定	
四・二八	第二回関東保育協議会第二回大会開催	
四・——	雑誌『保育カリキュラム』創刊 ひかりのくに昭和出版	
五・二九	日本保育学会第二回大会開催（於 東京女高師附属幼稚園）発表論文7 シンポジウム「幼児教育における訓練と自由の問題」（『幼児の教育』第四八卷七・八合併号に論文収録）	五・五 「子どもの日」制定（「母の日」も実施される）
五・三一	「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」公布（二	
四・九・一施行）	「国立学校設置法」公布（新制国立大学69校を各都道府県に設置）	
六・一	東京高等女子師範学校、お茶の水女子大学となる	六・一 「教育刷新審議会令」公布
六・二三	「幼稚園に対する保育用図画用紙について」通達（図	六・二四 図書新聞社創業 「図書新聞」創刊



	画用紙を配給)
七・三〇三	日本幼稚園協会保育講習会開催(坂元彦太郎「新しい幼稚園」他)
七・二六三	第三回全国保育大会開催(於 佐渡、保育の歌「花のおさなご」制定)
九・一九	「教育職員免許法施行令」公布
九・二六三	厚生省「保母指導者講習会」開催(於 大宮、「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)
九・一	倉橋惣三「子供讃歌」、「幼児の教育」に連載始まる(第四八巻九号、第五一卷五号)
〇・一	第一回全国幼稚園教員養成所長会議開催(於 東京フレーベル館「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)
〇・二九	第三回関西連合保育会研究協議会(於 神戸、「幼児の教育」第四八巻二号に内容紹介)
〇・三一	中国保育連合会発足(「幼児の教育」第四八巻二号に内容紹介)
〇・一	文部省、「無認可幼稚園に対する処置について」発表(「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)
二・一	「教育職員免許法施行規則」、「教育職員免許法施行法施行規則」制定
二・一	文部省調査普及局調査課「就学前教育施設の分布状況」

七・五	「文部省の各種審議会に関する政令」公布
七・一	「世界文学全集」(全40巻)刊行開始 河出出版
九・一八	ユニセフから初めての物資が届く
九・二二	「学籍簿の名称並びにその取扱について」通達(「学籍簿」を「指導要録」に改める)
〇・一	中華人民共和国政府樹立
〇・一	雑誌「チャイルドブック」創刊 国民図書刊行会(「日本ノコドモ」一九・四創刊の改題誌)
二・一	「世界の絵本」(全50巻)刊行開始 新潮社

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>刊行</p> <p>三・一 幼稚園設置基準に関する協議会開催（於 東京フレール館 『幼児の教育』 第四八巻一二号に内容紹介）</p> <p>三・一五 「私立学校法」公布</p> <p>三・一 倉橋惣三、お茶の水女子大学教授退官（六七歳）及川ふみ、その後を受けて附属幼稚園主事となる</p> <p>——</p> <p>東京女子高等師範学校の新制大学への移行にあたって、倉橋惣三は児童学科を創設することに尽力する</p> <p>波多野完治「児童心理学入門」 金子書房</p> <p>ホーマア・レーン、小此木沢「親と教師に語る」 日本評論社</p> <p>上澤謙二「幼児の談話教育」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>古木弘造「幼児保育史」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>松葉重庸「幼児の紙芝居と人形芝居」(保育叢書一七) 巖松堂</p> <p>松葉重庸「幼児の人形芝居脚本集」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>三木安正「幼児の心理と教育」 国土社</p> <p>村山貞雄「両親教育学」(保育叢書七) 巖松堂</p> <p>守屋光雄「育児心理学」 白井書房</p> <p>長沼依山訳述「アンデルセン童話集」 萩原星文館発行</p>	<p>——</p> <p>竹山道雄「ピルマの竖琴」刊</p> <p>垣内芳子編「こどもとレクリエーション」 社会教育連合会</p> <p>木田文夫「虚弱病児童の教育」 金子書房</p> <p>教育心理研究会編「現行知能検査法」 金子書房</p> <p>額田年「ワンハンドレッドゲームズ」 日本社会事業協会</p> <p>高橋四郎・松田稔「ゲームとその導き方」 日本基督教青年同盟</p> <p>高崎能樹「子供の個性と癖」(子供の教養叢書二) 草美社</p> <p>戸川行男「性格の類型」 金子書房</p> <p>特殊教育研究連盟編「精神遅滞児教育の実際」</p> <p>東京文理科大学内児童研究会編「児童の行動と発達(上)」(児童心理叢書二) 「児童研究」(同叢書一) 「生活指導と性格教育」(同叢書八) 金子書房</p> <p>牛島義友「教育のための標準検査」 金子書房</p> <p>牛島義友・波多野完治編「児童の心理と能力検査」(教育研究一) 「性格と社会性の検査」(同二) 巖松堂</p> <p>Forest, L.: Early Years at School</p>

滑川道夫「こどもの読書指導」 国土社

日本社会事業協会「保母ノート三・四・五」

長田新訳「フレーベル自伝」 岩波書店

酒田富治編「行進、リズム曲集」 白眉社

副島ハマ「幼児の絵畫と製作」(保育叢書一八) 巖松堂

副島ハマ「こどもの集団遊び」(上・下) 片井商会

瀧田要吉「自然物のおもちゃ」 フレーベル館

東京文理科大学内児童研究会編「児童文化」(児童心理叢書六)

金子書房

東京都保育会文化部編「劇あそび脚本」(改訂増補) フレーベル館

内山憲尚「幼稚園 保育所 お話と人形芝居」 フレーベル館

内山憲尚「幼児と 低学年の 実演童話集」 中央公論社

内山憲尚「幼児と 低学年の リクリエーションゲーム集」 中央公論社

牛島義友他「乳幼児精神発達検査」(児童研究叢書二) 金子書房

山下俊郎・竹田俊雄・森田宗一「困った子どもの問題」 新経営社

與田準一・波多野勤子編「幼児に聞かせるたのしい話」(婦人新

書三) 中央公論社

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二五 一九五〇 『幼児の教育』 第四九卷	<p>一・—— 波多野完治、『幼児の教育』編集委員に加わる</p> <p>一・—— 「官廳公示連絡事項」の欄『幼児の教育』に設置</p> <p>一・一九 幼稚園教育課程、幼児指導要録協議会発足（委員長 小川正通、幼児指導要録の作成を始める『幼児の教育』第四九卷二号に内容紹介）</p> <p>二・—— 幼稚園教育課程研究協議会開催 宮城県他二県各二日</p> <p>三・七〇三 厚生省主催、保育所運営及び指導要領（案）作成懇談会開催（『幼児の教育』第四九卷四号に内容紹介）</p> <p>三・一七 「教育職員免許法施行法」第二条の表、第二四項による教員養成機関指定</p> <p>〇二五年度開設された幼稚園教員養成短期大学（第一回分）</p> <p>東洋英和女学院短期大学・聖和女子短期大学・頌栄短期大学・天理大学短期大学部</p> <p>（第二回分）</p> <p>日本女子体育短期大学・北陸学院保育短期大学・平安女学院短期大学・西南学院短期大学部・純心女子短期大学</p> <p>〇二五年度から、お茶の水、奈良両女子大学でも幼稚園教員養成を開始</p>	<p>一・—— 満年齢の採用</p> <p>二・二〇 （米）マッカーシー旋風始まる</p>

<p>三・二七 第二回全国保母養成所長会開催（三日間）</p> <p>四・三 厚生省「ユニセフ寄贈物資による保育所給食範囲の拡張について」通達（『幼児の教育』第四九卷四号に内容紹介 関連記事『幼児の教育』第四八卷一一号）</p> <p>四・二六〇 第三回関東地区保育協議会開催（於 茨城、『幼児の教育』第四九卷五号に内容紹介）</p> <p>四・一 基督教保育連盟『基督教保育』『母の光』再刊</p> <p>五・二三 モデル保育所設定標準（案）成る（『幼児の教育』第四九卷六号に内容紹介）</p> <p>「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」改正（『幼児の教育』第四九卷七号に内容紹介）</p> <p>六・一一 日本保育学会第三回大会（於 奈良女子大学）研究発表8、シンポジウム「幼児の早教育の問題」（『幼児の教育』第四九卷九号に論文収録）</p> <p>六・一二 文部省、「幼稚園の幼児指導要録について」調査実施</p> <p>六・一 厚生省、「全国要保護児童」調査実施</p> <p>六・九〇三 GHQ、公衆衛生福祉部ブルーガ女史指導の下に「保母養成所教授要目研究協議会」開催</p> <p>六・一 幼稚園小学校教員研究会開催 千葉県他六県 各六日（『幼児の教育』第四九卷九・一〇号に参加者の報告文掲載）</p>	<p>三・三〇 「盲学校及びろう学校の就学義務に関する政令」公布</p> <p>四・一 短期大学発足</p> <p>四・一八 「教育課程審議会令」制定</p> <p>四・一 「世界美術全集」（全29巻）刊行開始 平凡社</p> <p>五・三〇 「地方財政平衡交付金法」公布（児童保護措置費など交付金制度の中に繰り入れられる）</p> <p>六・一 一月から六月の雑誌の休廃刊五二に及ぶ</p> <p>六・二五 朝鮮戦争勃発（二・八・七）</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
七・三〇	日本幼稚園協会主催保育講習会第一期開催（戸倉ハル「幼児の歌あそびの実際指導」）	七・三一 「地方税法」公布
七・三〇	第四回全国保育大会開催（於 福岡）	八・一〇 新学期からのガリオア資金による完全給食実施を発表
八・四	「教育職員免許法」改正（普通免許状及び仮免許状の経過措置の効力期間を昭和二八年三月三十一日から三一年三月三十一日まで延期。教員養成を主とする国立大学等において「免許法認定講習会」開催される『幼児の教育』四九巻五号に内容紹介）	
八・二七	日本幼稚園協会主催保育講習会第二期開催（酒田富治「幼児の器楽指導の実際」）	
九・二	幼稚園小学校研究集会（北海道ブロック）開催（『幼児の教育』第四九巻一一号に内容紹介）	
九・六	幼稚園教育に関する第一次教育指導者講習会（I F E L）開催、一二週間（『幼児の教育』第五〇巻二号に内容紹介）	
九・二二	第二次アメリカ教育使節団、マッカーサーに報告書提出（九・三〇発表 第三章「保育学校と幼稚園は、付属の小学校に接属するものとして維持されるべきものであって、幼稚園の教師を養成するための幼児の観察と学生の実習のために用いられなくてはならな	

- 九・—— 厚生省「保育所運営要領」刊
- 九・—— 玉越三朗「新教育における指導について―幼児指導要録の基礎としての指導」、『幼児の教育』に掲載される  
(第四九卷九・一〇号)
- 三〇・六七 全国仏教保育大会開催(戦後はじめての大会)
- 三〇・九 「学校教育法施行規則」改正(幼稚園の教育課程は保育要領の基準による、分校の設置は認可を受けることとする)、『幼児の教育』第四九卷一二号に内容紹介)
- 三〇・一一 第四回関西連合保育会研究協議会開催(於 名古屋)
- 二・一九 第一回全国国公立幼稚園長会協議会開催(『幼児の教育』第五〇卷一・二号に内容紹介)
- 三・二二 教育課程審議会、「幼稚園の教育課程について」答申
- 荒起彦「私の楽器指導」 白眉社
- 三〇・三 教育刷新審議会、「優良教育の確保に関する対策について」建議
- 三〇・九 「学校教育法施行規則」改正(教科課程を「教育課程」に、「学籍簿」を「指導要録」に、「試験」を「成績評価」に、「体操場」を「運動場」に改め、「自由研究」を廃止)
- 三〇・一七 「国旗掲揚、君が代斉唱について」通達
- 三〇・二八 「小学校の教科と時間配当について」通達
- 三〇・—— 「世界名作童話全集」(全60巻)刊行開始 大日本雄弁講談社
- 二・七 文相、全国教育長会議で道徳教育振興を提言
- 二・—— 「小川未明童話全集」(全12巻)刊行開始 大日本雄弁講談社
- 三・五 「学校教育法施行規則の一部改正について」通達
- 三・二五 岩波少年文庫刊行開始(第一回配本「宝島」)

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二六 一九五一 『幼児の教育』 第五〇巻	<p>井阪・周郷他編「幼児保育講座」(全5巻) 国民図書刊行会</p> <p>川島三郎「児童福祉の諸問題」 港出版合作社</p> <p>城戸幡太郎「幼児の教育」 福村出版</p> <p>厚生省「児童福祉関係法令通知集」刊</p> <p>教育大学講座 第九巻「幼稚園教育」金子書房</p> <p>松葉重庸「児童文化概論」 巖松堂</p> <p>小高吉三郎「日本の遊戯」再刊(初版一八年) 羽田書房</p> <p>一・—— 中央社会福祉協議会発足</p> <p>一・—— 日本幼稚園協会「本誌が第五〇巻に入るに当って、 『幼児の教育』に掲載される(第五〇巻一号)」</p> <p>二・一 教育刷新審議会「教育財政問題について」建議(幼稚園教員給を都道府県負担とする、戦争復興に国庫援助</p>	<p>「ふたりのロッテ」</p> <p>—— 北原白秋編「日本伝承童謡集成」(全6)刊行 開始 国民図書刊行会</p> <p>デューイ、宮原訳「学校と社会」 春秋社</p> <p>Gardner: Long Term Results in Primary Schools (フォーマル教育とインフォーマル教育との教育効果に関する縦断研究。インフォーマル教育の児童はよりリラックスしており、不安感が少なく仲間や調査者と気楽な関係をもつと指摘)</p> <p>Erikson, E.H: Childhood and Society. (草野栄三郎訳「幼年期と社会」 日本教文社 一九五五)</p> <p>一・四 教育課程審議会「道徳教育について」答申</p> <p>一・八 教育指導者講習会(IFEEL)開催</p> <p>二・—— (ソ)第五次五ヶ年計画発表</p>



<p>をする、地方財政平衡交付金制度において幼稚園費を明記すること)</p>	<p>二・二 「幼稚園に入園を希望する幼児の取扱いについて」 通達</p>	<p>二・一 倉橋惣三「第二次アメリカ教育使節団の報告中就学前教育に関する提言について」、「幼児の教育」に掲載される(第五〇巻二号)</p>	<p>三・三 「幼稚園の指導要録について」 通達(『幼児の教育』第五〇巻五号に内容掲載)</p>	<p>三・三一 「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」の一部改正(『幼児の教育』第五〇巻七号に内容掲載)</p>	<p>四・一 堀合文子「私の記録から」、「幼児の教育」に連載される(第五〇巻四・一〇・一一号)</p>	<p>五・五 児童憲章制定</p>	<p>五・二七 日本保育学会第四回大会(於 お茶の水女子大学附属幼稚園) 研究発表10 シンポジウム「保育施設と家庭及び学校」(『幼児の教育』第五〇巻九号に収録)</p>	<p>五・一 幼稚園小学校教員研究集会開催 幼稚園教育要領編集委員会発足 カリキュラムと指導要録関係の記事、『幼児の教育』に掲載される(第五〇巻五号)</p>	<p>三・一 無着成恭編「山びこ学校」(山形県山元村中学生作文) 刊</p>	<p>四・一一 トルーマン、マッカーサーを日本占領軍、連合軍の最高指令官から解任</p>
----------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------	----------------------------------------------

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
六・――	「児童福祉法」改正（保育所が「保育にかける」児童を入所させるものであることを明記した―三九条）	六・三 NHK実験TV放送
六・――	「フレール百年記念」、「幼児の教育」に特集される（第五〇巻六号）	六・二二 「教職員の除去、就職禁止等に関する政令の一部を改正する政令」公布
七・三〇	日本幼稚園協会主催保育講習会（戸倉ハル「わらべうたと遊び」他）	六・二六 ユネスコ加盟
七・――	「児童憲章」関係の記事、「幼児の教育」に掲載される（第五〇巻七号）	七・一 学習指導要領一般篇（改訂版）刊 七・一〇 朝鮮休戦会議開かれる（於 開城）
八・七	第五回全国保育大会（於 仙台、「全国保育連合会」を「日本保育連合会」に改称）	八・二六 フルブライト法に基づく日米教育交換計画に調印（二七・七第一回留学生出発）
九・一七	幼稚園設置基準作成協議会発足	九・八 対日講話条約・日米安全保障条約、サンフランシスコで調印
九・一七	「学校法人以外の私立幼稚園に対する助成について」通達	九・―― 雑誌『少女ブック』創刊
九・二七	「保育所の給食用ミルク等の譲与並びにこれに伴う財政措置に関する政令」公布	芦田昇「児童と青年の心理」 文徳社
一〇・――	福祉事務所発足	長田新「原爆の子」 岩波書店
一〇・――	「フレール百年記念」、「幼児の教育」に再び特集される（第五〇巻一〇号）	Bowly, J.: Maternal Care and Mental Health. WHO Rojers, C.: Client-Centered Play (友田訳「遊戯療法・集團療法」岩崎書店 一九五六)
一一・二一	日本教職員組合、第一回全国教育研究大会開催（第9分科会「幼児教育の現状とその打開策をいかにするか」）	Barker, R. G., and Wright, H. F.: One Boy's Day

二・—— 東基吉「婦人と子ども」創刊当時の子どもと其の頃の幼稚園の現状について、「幼児の教育」に掲載される  
(第五〇巻一一号)

三・—— 倉橋惣三「幼児の教育半世紀の辞」、『幼児の教育』に掲載される(第五〇巻一二号)

安倍盛・藪田義雄共著「わらべ唄一一〇四集」全音楽譜出版

文部省「初等教育の原理」東洋館

倉橋惣三「育ての心」再版(初版一一年) 乾元社

倉橋惣三「フレーベル」再版(初版一四年) 岩波書店

中塩田小学校「就学前の教育」信濃教育出版部

酒田富治編「新しい幼児のうた」1・2 白眉音楽出版

東京教育大学児童研究会編「児童問題新書」(全10巻) 金子書房

山下俊郎「児童の生活とその指導」東洋館

山下俊郎「幼児の家庭教育」東洋館

山下俊郎「幼児の心理的発達」巖松堂

アメリカ合衆国社会保障庁児童局「あなたの子どものために」

厚生省児童局

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二七 一九五二 『幼児の教育』 第五一卷	<p>一・― 『幼児の教育』協力委員座談会「日本保育界発展のために考慮すべき重要諸問題」、『幼児の教育』に掲載される（第五一卷一号）</p> <p>二・八 『幼稚園の設置基準案』の答申提出される（『幼児の教育』第五一卷五号に内容掲載）</p> <p>二・― 小川正通「ソヴェートの就学前教育」、『幼児の教育』二月号に掲載（戦後はじめてのソ連の幼児教育の紹介）</p> <p>三・二 「保育指針」刊</p> <p>三・五 幼稚園教育研究協議会開催、福井県他二県、各二日（幼稚園基準の意見聴取）</p> <p>三・― 「幼稚園と小学校の連絡」「幼稚園と保育所の先生養成の問題」、『幼児の教育』に特集される（第五一卷三号）</p> <p>四・― 「幼児問題」（座談会）、『幼児の教育』に特集される（第五一卷四号）</p> <p>四・― 波多野完治「幼児の心理」、『幼児の教育』に連載される（第五一卷四・五・六・八号）（ピアジェの心理学に基づく講話）</p> <p>五・一七 日本子どもを守る会結成（会長 長田新、機関誌『子ども』のしあわせ」刊）</p>	<p>二・一 福音館創業</p> <p>三・二七 「私立学校振興会法」公布</p> <p>四・二八 対日講和条約発効</p> <p>四・― 雑誌『よいこのくに』創刊 学習研究社</p> <p>四・― 「小学館の幼年絵本」刊行開始</p> <p>五・六 モンテッソリ死去</p> <p>五・一〇 全国社会福祉協議会連合会結成（中央社会福祉</p>

<p>五・二〇 「公立幼稚園調査」「小学校入学前の幼児施設調査」 実施</p>	<p>五・—— 社協議会の改称) 創造美育協会発足</p>
<p>五・二一 「幼稚園基準」通達(『幼児の教育』第五一卷八号に内容掲載)</p>	
<p>五・二五 日本保育学会第五回大会(於 名古屋市立保育専門学園)研究発表15、シンポジウム「幼稚園と保育所をどう考えるか」(『幼児の教育』第五一卷九号に発表論文収録)</p>	
<p>五・二七 第六回全国保育大会(於 松江)(この時、幼稚園・保育所関係者が別個に会合をもち、全国保育連合会 は実質的に分裂し、解散する)</p>	
<p>五・—— 初等教育実験学校に東京学芸大学附属幼稚園を指定 (三年間)</p>	
<p>五・—— 建築モデルスクール候補校に名古屋市立第三幼稚園他 七園が初めて指定される</p>	<p>六・一 デューイ死去</p>
<p>六・七 第三回国公立幼稚園長会開催</p>	<p>六・六 「中央教育審議会」設置(「教育刷新審議会」 廃止)</p>
<p>六・二三 フレーベル百年記念講演会(日本幼稚園協会・東京都 保育会・東京都私立幼稚園協会共催 於 お茶の水女 子大学)</p>	<p>六・二三 岩波講座「教育」(全8巻)刊行開始(一二八・ 一一)</p>
<p>六・—— 幼稚園小学校教員研究集会開催、山梨県他七県、各六日 七・五 厚生省・全国社会福祉協議会連合会共催 第一回保</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>育事業大会開催（於 松江）（はじめての保育所関係者の会合）</p> <p>七・三〇 日本幼稚園協会主催保育講習会（戸倉ハル「器楽と遊戯」）</p> <p>九・—— 堀合文子・鈴木とく「九月の保育」、「幼児の教育」に掲載される（第五一卷九一二号 具体的な保育案の紹介）</p> <p>一〇・一九 全国幼稚園施設協議会発足 学校建物規準調査会第二分科会発足（木造園舎標準設計）</p> <p>二九〇〇 全国モデル幼稚園協議会発足、研究協議会開催（三〇年、全国幼稚園施設協議会に改称）</p> <p>三・—— 民主保育連盟解散、保育問題懇談会誕生</p> <p>A・ゲゼル 山下訳「乳幼児の心理学」 大日本図書 宮武辰夫「幼児の絵は生活している」 栗山書房 守屋光雄「幼稚園児」 金子書房 小川太郎「日本の子ども」 金子書房</p>	<p>八・八 「義務教育費国庫負担法」公布</p> <p>一〇・五 （ソ）第十九回ソ連共産党大会開催（五五年までに保育所を20%、幼稚園を40%増加させることを決定）</p> <p>一〇・一四 日本PTA結成大会開催</p> <p>一一・一 市町村教育委員会、全国一斉に発足</p> <p>二・八 新制大学大学院修士学位決定（教育学・家政学等）</p> <p>三・一〇 壺井栄「二十四の瞳」 光文社</p> <p>——（米）NAEYC（全米ナースリー協会）をNAEYC（全米幼児教育協会）に改称</p> <p>芦田昇「発達と教育の心理学」 東洋書館</p>

昭和二八 一九五三 『幼児の研究』 第五二巻	C・ストラッツ 森訳「子どものからだ」 創元社 幼児指導研究会「子どもは幼稚園でこのように学びます」 ひかりのくに昭和出版
二・一〇 文部省「幼稚園のための指導書 音楽リズム」刊（幼稚園に関する最初の指導書） 二・ 乾孝・早川元二を中心に旧保育問題研究会復活	五・一三 初等教育実験学校研究発表会開催（東京 竹早幼稚園が発表） 五・三一 日本保育学会第六回大会（於 日本女子大学）研究発表 16 シンポジウム「幼児保育と準備教育」（『幼児の
一・二〇 アイゼンハワー、米大統領に就任 二・一 マルシャーク 湯浅訳「森は生きている」 三・五 （ソ）スターリン死去、マレンコフ、首相に就任 三・七 サンティクチュベリ、内藤訳「星の王子さま」 四・一 国立大学に新制大学院設置 四・ ー 「世界少年少女文学全集」（全50巻）刊行開始 東京創元社 五・六 全国同和教育研究協議会発足 五・一三 学制八〇年式典挙行	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>六・—— 教育』第五二卷九号に發表論文収録)</p> <p>六・—— 学校施設調査会第一一分科会発足(幼稚園)</p> <p>七・—— 幼稚園小学校教員研究集会開催、栃木県他四県、各六日</p> <p>七・三〇 「教育職員免許法」改正(教員免許状資格付与課程の認定制を実施)</p> <p>九・—— 雑誌『保育の友』創刊 全国社会福祉協議会</p> <p>三・—— 日本保育連合会々長倉橋惣三、健康上の理由により会長を辞任</p> <p>二・二七 「学校教育法施行規則」改正(保育要領を幼稚園教育要領に改める)</p> <p>三・三 国富友次郎(幼児教育功労者)死去</p> <p>—— この年公立幼稚園施設費及び設備費補助金交付(設備</p>	<p>七・—— 「学習図鑑」(全30巻)刊行開始 保育社</p> <p>八・七 教育課程審議会「社会科の改善、特に道德・地理・歴史教育について」答申</p> <p>八・八 学校図書館法公布(これを機に、学校向けの圖書の出版が活発になる)</p> <p>八・二七 公立学校施設費国庫負担法公布</p> <p>八・三一 私立学校教職員共済組合法公布</p> <p>九・—— 雑誌『母の友』創刊 福音館書店</p> <p>三・—— 「岩波子どもの本」刊行開始</p> <p>—— (ソ) コルホーズは収入の一部で就学前教育</p>



費補助金は三二年度まで)

—— 建築モデルスクール候補校に大分市立金池幼稚園他五園指定

安藤寿美江・渡辺茂共著「リズムミカル表現あそび」 フレーベル館

平井信義「保育のための医学」 恒星社厚生閣

平井信義・松村康平・水原泰介「幼児保育の知識」 金子書房

賀来琢磨「実用遊戯動きのリズム」 フレーベル館

倉橋惣三「幼稚園真諦」 フレーベル館(昭和九年東洋図書出版刊「幼稚園の保育法真諦」から「第四篇誘導保育案の試み」を省き、著者加筆、整理、改題した新版)

増子とし編著「保育のための音楽カリキュラム」 フレーベル館

根岸草笛「保母日記」

高橋さやか「保育とその方法」 博文社

玉山英光「幼稚園の音楽課程」 白眉音楽出版

莊司雅子「フレーベル研究」 講談社

内山憲尚「たのしい幼児の生活遊びの歌」 白眉音楽出版

内山憲尚「幼児の生活と創造の保育」 日本保育教材 K・K

施設をすることを決定

—— (カ) ソーク、小児麻痺のワクチンを完成

Havighust, R.: Human Development and Education

(莊司訳「人間の発達課題と教育」 牧書店 一九五八)

Sullivan, H.: The Interpersonal Therapy

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二九 一九五四 『幼児の教育』 第五三卷	一・一四 和田實死去  一・三五 指導主事教科別連絡協議会（文部省主催）開催（「幼稚園の環境」「幼稚園教育の目標」について協議） 二・—— 津守真、「幼児の教育」誌の編集主任となる 二・—— 「教育白書 ―わが国教育の現状―」刊 二・—— 保育問題研究会「会報」戦後第一号発行 二・—— 「幼稚園にカリキュラムは必要か」（座談会）、「幼児の教育」に特集される（第五三卷二号） 三・—— 「新入園児を迎える ―その抱負―」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷二号） 四・—— 「園児を送る」「新入園児を迎える」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷四号） 五・二〇 初等教育実験学校研究発表会開催（東京竹早幼稚園が発表） 五・三〇 日本保育学会第七回大会（於 頌栄短期大学）研究発表17 シンポジウム「自由保育と一斉保育」日本保育学会共同研究「本邦幼児発達規準の研究」（第一回中間報告）（『幼児の教育』第五三卷九月号に論文収録） 五・—— 「幼稚園教育で何が一番重要か」（アンケート調査）、「幼児の教育」に特集される（第五三卷五号）	二・—— 力道山のタッグマッチ人気高まる  三・—— ビキニ水爆実験（第五福竜丸が死の灰あびる） 四・—— キリスト教保育連盟原宿高等保育学校開設（夜間、現在の草苑保育専門学校の前身） 五・一五 「地方交付税法」公布（地方財政平衡交付金法）廃止 五・一七 （米）最高裁、公立学校における人種分離教育に違憲判決

<p>五・—— 全国国公立幼稚園長会主催第一回幼稚園教育研究協議会開催（於 岡山）</p>	
<p>六・三 「教育職員免許法」改正（園長の免許状を廃止し、その資格を教育公務員特例法で規定、仮免許状の廃止、単位修得の方法を改め、臨時免許状の有効期間を三年とする）</p>	<p>六・一 へき地教育振興法公布 六・三 教育公務員特例法一部改正 「学校給食法」公布</p>
<p>六・—— 「家庭に望むこと、幼稚園に望むこと」「家庭との連絡」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷六号）</p>	
<p>七・三〇〜三二 日私幼主催第一回全国私立幼稚園教育研究大会開催（記念講演 羽仁説子「幼児教育に望む」・山下俊郎「幼児教育の新しい方向」）</p>	
<p>七・—— 玉越三朗「教育白書にあらわれた幼稚園の現状」、「幼児の教育」に掲載される（第五三卷七・一一号）</p>	
<p>七・—— 日本私立幼稚園連合会機関誌「私幼時報」創刊</p>	
<p>八・—— 厚生省児童局保育課を母子福祉課に改組</p>	<p>八・一三 映倫、映画と青少年問題対策協議会設置（青少年向きの映画の選定）</p>
<p>九・二八 「幼稚園教育要領」原案発表</p>	<p>九・一四 映画「二十四の瞳」公開</p>
<p>九・二八 「公立学校建物の児童等一人当りの暫定最低基準坪数の補正について」通達</p>	
<p>九・—— 文部省主催幼稚園教育研究集会開催、東京都他一県、各四日（三〇年まで継続）</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>九．—— 全国社会福祉協議会連合会主催第二回保育事業研究大会  「遠足についてこう思う」、『幼児の教育』に特集される（第五三卷一〇号）</p> <p>二．八 教員養成学部教官教研集会開催（於 大分大学、以後毎年継続）</p> <p>二．—— 「入学・テスト・幼稚園」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷一一号）</p> <p>三．—— 「冬のおそびと保育」、『幼児の教育』に特集される（第五三卷一二号）</p> <p>—— この年、建築モデルスクール候補に西協市立西協幼稚園  園他三園指定</p> <p>波多野勤子「幼児の心理」 光文社</p> <p>アイザックス 懸田訳「幼児のしつけ方」 要書房</p> <p>ゲゼル 依田・岡訳「乳幼児と現代の文化」 新教育協会</p> <p>児玉省「保育理論」 日本女子大学通信教育部</p> <p>厚生省「保育の理論と実際」 全国社会福祉協議会</p> <p>松石治子「幼児の製作一二ヶ月」 三友書房</p> <p>松葉重庸「児童心理学」 医学書院</p>	<p>二．三 SF映画「ゴジラ」公開（怪獣映画のはじまり）</p> <p>三．六 中央教育審議会、「へき地教育および特殊教育の振興について」答申</p> <p>—— 児童文学同人雑誌の活動盛んとなる</p> <p>—— (ソ) コルホーズ幼稚園の規定制定</p> <p>Macfarlane et al.: Developmental Study of the Behavior Problems Normal Children between 21 months and 14 days.</p>

<p>『幼児の教育』 第五四卷</p>	<p>昭和三〇 一九五五</p>
<p>三・二五 幼稚園教育要領（原案）説明会開催 東京都他三県 各二日</p> <p>四・二一 倉橋惣三死去（七二才）</p> <p>四・二七 初等教育実験学校に東京都千代田区立番町幼稚園を指</p>	<p>宮内・角尾・鈴木編「幼稚園教育の実際」 フレーベル館</p> <p>長田新・羽仁説子他編「児童問題講座」（全5巻） 新評論社</p> <p>ピアジェ 大伴詠「児童臨床心理学Ⅰ」 同文書院</p> <p>山下俊郎「一人子の心理と教育」 巖松堂</p> <p>山下俊郎「改訂幼児心理学」 朝倉書房</p> <p>山下俊郎「児童相談」 光文社</p> <p>安田浩「年間保育カリキュラム」 白眉音楽出版社</p> <p>全国モデル幼稚園協議会「第三回モデル幼稚園協議会研究資料」 フレーベル館</p>
<p>二・一一 の 大綱発表表</p>	<p>「小・中学校社会科の学習指導要領改正案」</p>

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>定（三年間）</p> <p>四・—— 指導要録研究協議会発足</p> <p>五・三〇三 日本保育学会第八回大会開催（於 お茶の水女子大学）研究発表31、シンポジウム「性格教育の問題」</p> <p>（『幼児の教育』第五四卷九・一〇号に論文収録）</p> <p>六・—— 初等教育実験学校発表会開催（於 東京）</p> <p>七・—— 『幼児の教育』誌、第五四卷七号を「倉橋惣三先生追悼号」とする</p> <p>七・—— 教材等調査研究会幼稚園教育小委員会発足（絵画製作編の作成）</p> <p>八・一六 「物品税法施行規則」改正（テレビ・ラジオ・幻燈機などが免税となる）</p> <p>八・—— 文部省主催幼稚園教育研究会開催 神奈川県他一県各四日</p> <p>八・—— 第二回国立幼稚園研究協議会開催（於 東京）</p> <p>三〇・八 「幼稚園幼児指導要録」改訂</p> <p>二・一四 教員養成学部教官研究会開催（於 岡山大学）</p> <p>芦田昇「幼児の理解と教育」 明玄社</p> <p>羽仁説子「新しい保育園の運営」 博文社</p>	<p>五・—— 公立学校建物の実態調査実施</p> <p>五・三一 （米）最高裁、公立学校における人種差別撤廃の実施を命令</p> <p>七・一二 国語審議会、「かなの教え方」について、かな、ひらがな並行学習を答申</p> <p>八・五 「女子教育職員の産前産後の休暇中における学校教育の正常な実施の確保に関する法律」公布（三一・四・一施行）</p> <p>二・六 （米）アラバマ州モントゴメリー市で黒人差別撤廃バス・ボイコット運動おこる（一五・五・一二・三）</p> <p>三・五 中央教育審議会「教科書制度について」答申</p>

上沢謙二「いま・ここ保育」 厚生閣

宮武辰夫「(ミス・ショウの)フィンガー・ペインティングについて」 創造美育パンフレット

中川武夫「基礎的研究に基づいた幼児の教育」 東洋館

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会「幼児の教育内容とその指導」 フレーベル館

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会「幼児の劇あそび集」

お茶の水女子大学附属幼稚園

小川正通「保育原理」 金子書房

長田新「フレーベルに還れ」 フレーベル館

ピアジェ 大伴訳「児童臨床心理学Ⅱ」 同文書院

ローウェンヘルド 勝見訳「子どもの絵」 白揚社

酒田富治「幼児の楽器あそび」 白眉音楽出版

関忠夫「雨の日のママ」 大蔵出版

莊司雅子「幼児教育学」 柳原書店

莊司雅子「フレーベルの教育学」(初版一九年) フレーベル館

高橋さやか「保育のための文学」 博文館